

出題分析		
試験時間 60分	配点 60点	大問数 3題
分量 (昨年比較) [減少 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">同程度</span> 増加]	難易度変化 (昨年比較) [易化 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">同程度</span> 難化]	
<p><b>【概評】</b></p> <p>整数、数列、関数分野からの出題であった。昨年2題出題された図形分野は出題されなかった。また、確率、微積分は昨年に引き続き、今年も出題されなかった。例年通り、全問記述式である。</p>		

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
1	整数	累乗の1の位の数についての問題である。 10で割った余りで分類して考えるから、合同式を用いれば楽であるが、合同式に慣れていない場合は $n = 10k + r$ とおいて計算しよう。(2) $n = 1, 2$ を代入すると $f_5(n) - f_1(n) = 0$ であることが予想できる。 $n^5 - n$ を上手く変形して、10の倍数であることを示そう。	やや難
2	数列	階差数列に関する問題である。 (1)は(2)の誘導である。(3) $a_2$ は $a_1 + b_1$ で定まるため $n \geq 2$ のときの $b_n = n(n+1)$ によらない。よって $n = 1, 2, n \geq 3$ で場合分けが必要であることに注意する。	やや易
3	三角関数、2次関数	三角関数と2次関数の融合問題である。 (2) $k$ の取りうる値の範囲は三角関数を合成することで求められる。(3) $k$ の値によって、対応する $\theta$ の個数が異なることに注意する。また、 $a$ の値の範囲にも気をつけよう。	やや難

#### 合格のための学習法

年度によって、多少の難易度の差はあるが、典型的な問題を確実にこなす力を身につけることが重要である。いろいろな問題を解いて、正しい解法や、スムーズに計算を行う力を身につけよう。また、どの分野から出題されても対応できるようにすることも大切である。苦手な分野がある者は、教科書などできちんと基礎事項を身につけること。

そして、この学部は全問記述式である。考えたことをまとめることや、模範解答を読んでどのように記述すればよいかを学ぶことを、日頃から行おう。